



自由民主党衆議院議員【埼玉 3 区（越谷市・草加市）】

～自民党国会議員対談～

参議院議員 古川俊治 × 衆議院議員 きかわだ ひとし

※きかわだひとしを応援する会 入会のご案内など

きかわだステーション

第 21 号

きかわだひとし FB はこちら！友達募集中！↑↑↑
衆議院議員 黄川田仁志事務所発行 電話 048-933-0591



～自由民主党国会議員対談～ 参議院議員古川俊治 × 衆議院議員きかわだひとし

先日、越谷市中央市民会館において、自由民主党の古川俊治参議院議員ときかわだ ひとしの政治対談が行われました。今号では、その対談内容の一部をご紹介させていただきます。地元選出の国会議員が何を考えているのか？これからよりよい日本にしていくために、衆議院と参議院はどうあるべきか？日本を取り戻すため、自民党の国会議員は一致団結して取り組んでいます。

Q1 参議院と衆議院の違いとは？どうして参議院議員 or 衆議院議員になったの？

古川：参議院は任期が 6 年です。衆議院は解散があり、いつ任期が終わるかわかりません。予算や総理大臣指名、条約の承認、法律の採決において、衆議院は優越しています。国民の皆さんのが声を反映することが、憲法がしめす衆議院議員のあるべき姿です。これに対して参議院は、専門的なことをしっかりと話し合っていくという性格を有しています。

私の場合、もともと慶應大学の教員など専門職でしたので、自分に向いているのは、参議院だろうと思いました。また、地元埼玉県全域という広い選挙区のほうが、自分なりの政治活動ができるんじゃないかなと思い、参議院議員になりました。

しかし、最近残念なのが、衆参の違いがはっきりしなくなっていることです。



古川俊治参議院議員

衆議院で落ちたから参議院で立候補する人が増えてしまって…。逆もありますけれども。ですから、参議院と衆議院の違いが、選挙制度にしっかりと現れなければならないと考えています。



きかわだひとし衆議院議員

きかわだ：私の政治信条は、現地現場主義です。生活の現場である地域に根差した国会議員、小選挙区制度の衆議院が自分には向いていると思いました。一人ひとりとの対話の積み重ねを糧に、国政に挑めるのが、衆議院の特徴ですね。

また、私は、一般的なサラリーマン家庭で育ちましたので、昔の貴族院ではなく、庶民的な衆議院が合っているように思いました。古川先生がおっしゃるように、最近は、参議院と衆議院の違いが明確でなくなり、参議院不要論まで出ていますが、私は、参議院はアメリカの上院のように、県代表という意味合いを強くすることが大切だと思っています。人口の少ない地域の声も政治に反映できる選挙制度は参議院です。参議院と衆議院の選挙の仕組みが違う上で、お互いにチェック機能が果たせるのが理想的ではないでしょうか。

古川俊治（ふるかわ としはる）

埼玉県選出の自由民主党参議院議員。医学博士。弁護士。旧岩槻市出身。財政金融委員。党厚生労働部会、財政金融部会、法務部会の各副部会長。自民党きっての知性派。趣味はマラソン、ウォーキング。t r f の SAM と従兄弟同士。

参議院議員古川俊治×衆議院議員きかわだひとし

衆参のねじれを解消して力強い政策運営を！

Q2 日本の産業振興をどう考えますか？

古川：これから日本に、特にニーズが出てくるのは、やはり新エネルギーとライフサイエンスの分野ですよね。この2つが基幹産業になっていくのは間違いないと思います。

原子力に頼らない再生可能エネルギー技術をどう広げていくか。そして医療のことで言えば、医薬品や医療品の分野。中国も高齢化してくるので、介護分野もこれからチャンスです。特に中小企業は、医療機器分野で、大量生産できない製品をつくれば、世界を相手に十分勝負できますよ。医療機器を輸出産業を持っていくことが、日本の産業振興の大きな挑戦になると思います。

また、黄川田さんは、環境の専門家です。是非とも、専門知識や人脈を駆使して、産学官連携で新産業創出に挑戦して欲しいですね。

きかわだ：日本に新産業をつくるために政治がすべきことは、民間から新しい目が出やすい体制をつくることです。そのために、日本の得意分野の技術で、世界の最先端を目指す必要があります。最先端技術を開発する過程で、それから派生する新技术が次々生まれます。それらが日本の産業にイノベーションを起こすのです。今までのように大量生産、大量消費型の産業では、人件費の安いアジア諸国にはかなわない。古川先生がおっしゃる医療機器分野は日本に大きな可能性がある代表的な新産業の1つです。日本の宝である中小企業の皆さんを持つ、他国に真似できない技術が、私たちの未来を支えると確信しています。また、私は、エネルギー分野で、世界最先端技術を育てていきたいですね。

Q3 高齢化をどう乗り越えるのか？

古川：厚生労働省は、在宅介護を進めています。しかし、子どもと同居していても、共働きの家庭には、介護できる家族はいません。ほとんどの子どもたちは、仕事を求めて都会に出て、親と一緒に暮らしていません。現実を見ると、高齢者の介護しているのは高齢者、老老介護です。政治はこの厳しい現実から逃げてはいけません。日本は、何らかの倫理観や家族のあり方、共同体のあり方等を、もう一度考え方を、取り戻していくかないと、高齢化社会を乗り切ることはできないと思います。

きかわだ：今の日本では、納税者が、社会保障を中心とした公共サービスを十分に受けているという実感がないのが問題だと思います。高齢化を乗り切るために、古川先生がおっしゃる倫理観の構築も必要ですが、一方で、やはりお金も必要です。一定の増税もやむを得ません。しかし、納めた税金の分だけ、しっかり恩恵を受けていると実感できる公共サービスの実施が不可欠です。それらを実現するためには、国と地域が連携し、国民に身近な市町村を中心に、高齢者福祉を担っていくことが大切なのではないでしょうか。

～一緒に日本の政治を考え、行動してみませんか？～

きかわだひとしを応援する会（後援会）入会のご案内

きかわだひとしの政治理念及び活動に共感し、応援していただける方を募集しております。越谷市または草加市にお住まいの方なら、どなたでもご入会いただけます。**入会金・年会費は不要**です。会員の皆様には、活動報告等をお届けします。入会を希望される方は、恐れ入りますが、下記までご連絡いただきますようお願い申し上げます。



一緒に「自立」と「誇り」ある日本を創ろう！

きかわだひとしを応援する会

〒340-0052 埼玉県草加市金明町1-1 中野マンション102 Tel 048-933-0591 Fax 048-933-0597

Mail : info@kikawadahitoshi.jp HP : <http://www.kikawadahitoshi.jp>

Blog : <http://ameblo.jp/kikawadahitoshi/> (Ameba 政治家ブログ)

ボランティア大歓迎

きかわだひとしの活動をお手伝いいただける方を募集！

カンパ募集しております！

サラリーマン出身のきかわだひとしの政治活動拡大にご協力を！

きかわだひとしとは…自民党衆議院議員。東京理科大卒、米メリーランド大学大学院修了。松下政経塾出身。元環境コンサルタント。昭和45年生まれ。趣味は剣道、空手、野球、落語。現在、外務、法務、震災復興特別各委員会所属。自民党青年局次長。



衆参でタッグを組み越谷・草加を住みよい地域に！